

**製品名: KPNA2 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM81616**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	58kDa

**抗原情報**

遺伝子名	KPNA2
別名	QIP2; RCH1; IPOA1; SRP1alpha
遺伝子 ID	3838.0
SwissProt ID	P52292
免疫原	大腸菌で発現したヒト KPNA2 (AA: 1-530) の精製された組み換え断片。

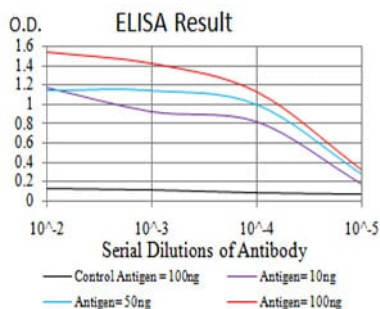
**背景**

タンパク質の核内輸送は、少なくとも2つの段階からなるプロセスです。第1段階は、エネルギー非依存的にタンパク質が核膜にドッキングする段階であり、第2段階は、エネルギー依存的に核膜孔複合体を介した輸送です。輸送されたタンパク質は、核局在配

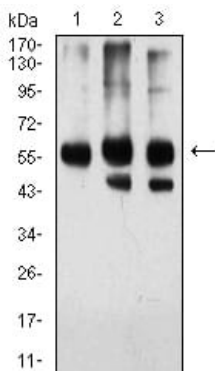
列 (NLS) を必要とします。NLS は通常、短い塩基性アミノ酸領域、または約 10 アミノ酸間隔で配置された 2 つの塩基性アミノ酸領域から構成されます。核内輸送の第一段階に関与するタンパク質は、様々な系で同定されています。例えば、アフリカツメガエルのタンパク質インポーチンとその酵母ホモログである SRP1 (サッカロミセス・セレビシエにおける RNA ポリメラーゼ I の特定の温度感受性変異の抑制因子) は、NLS に結合します。KPNA2 タンパク質は、DNA ヘリカーゼ Q1 および SV40 T 抗原の NLS と相互作用し、タンパク質の核輸送に関与している可能性があります。KPNA2 は、V(D)J 組換えにおいても役割を果たしている可能性があります。

## 研究分野

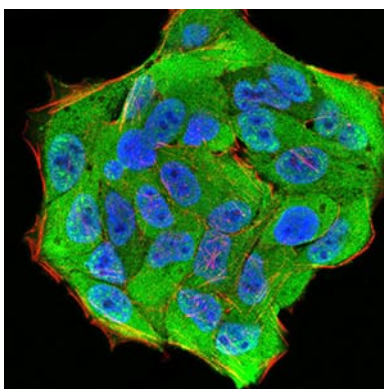
## 画像データ



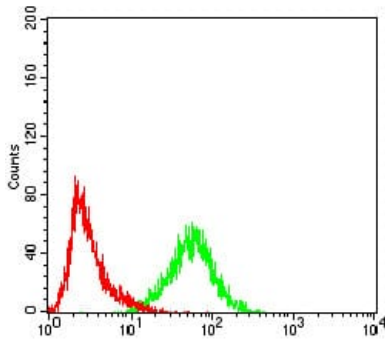
黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



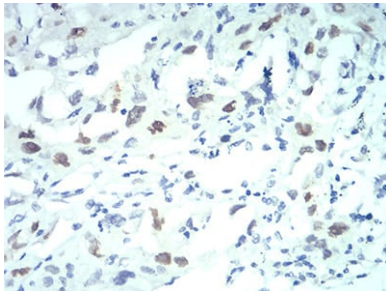
Hela (1)、HEK293 (2)、および NIH/3T3 (3) 細胞溶解物に対する KPNA2 マウス mAb を使用したウエスタンブロット分析。



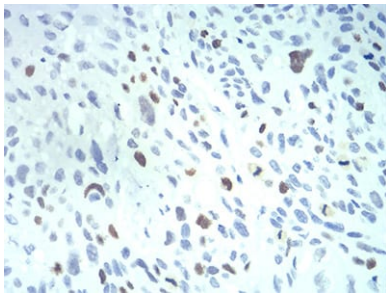
KPNA2 マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



KPNA2 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した Hela 細胞のフローサイトメトリー分析。



KPNA2 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学分析。



KPNA2 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト食道癌組織の免疫組織化学分析。